

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ＞

御岳^{おたけ}火口では、4月1日以降、噴火により火口から1km付近まで飛散する大きな噴石は観測されていません。また傾斜計による地殻変動データに、大きな変化はみられていません。

諏訪之瀬島では御岳火口から1kmを超え、概ね2km以内の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低下したと考えられます。

以上のことから、本日（5日）11時00分に火口周辺警報を発表して、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

一方、噴火活動は継続しており、今後も火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石が飛散する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況（図2～4、表1）

御岳^{おたけ}火口では、3月30日から31日にかけて爆発が増加しましたが、その後、爆発回数は減少しており、4月1日以降、大きな噴石の飛散は最大で火口から約300mまででした。

傾斜計による地殻変動データに、大きな変化はみられていません。

このように、御岳火口から1kmを超え、概ね2km以内の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低下したと考えられますが、引き続き概ね1kmの範囲に影響を及ぼすような活発な噴火活動が継続しています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/index.html>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています。



図1 諏訪之瀬島 警戒が必要な範囲

御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

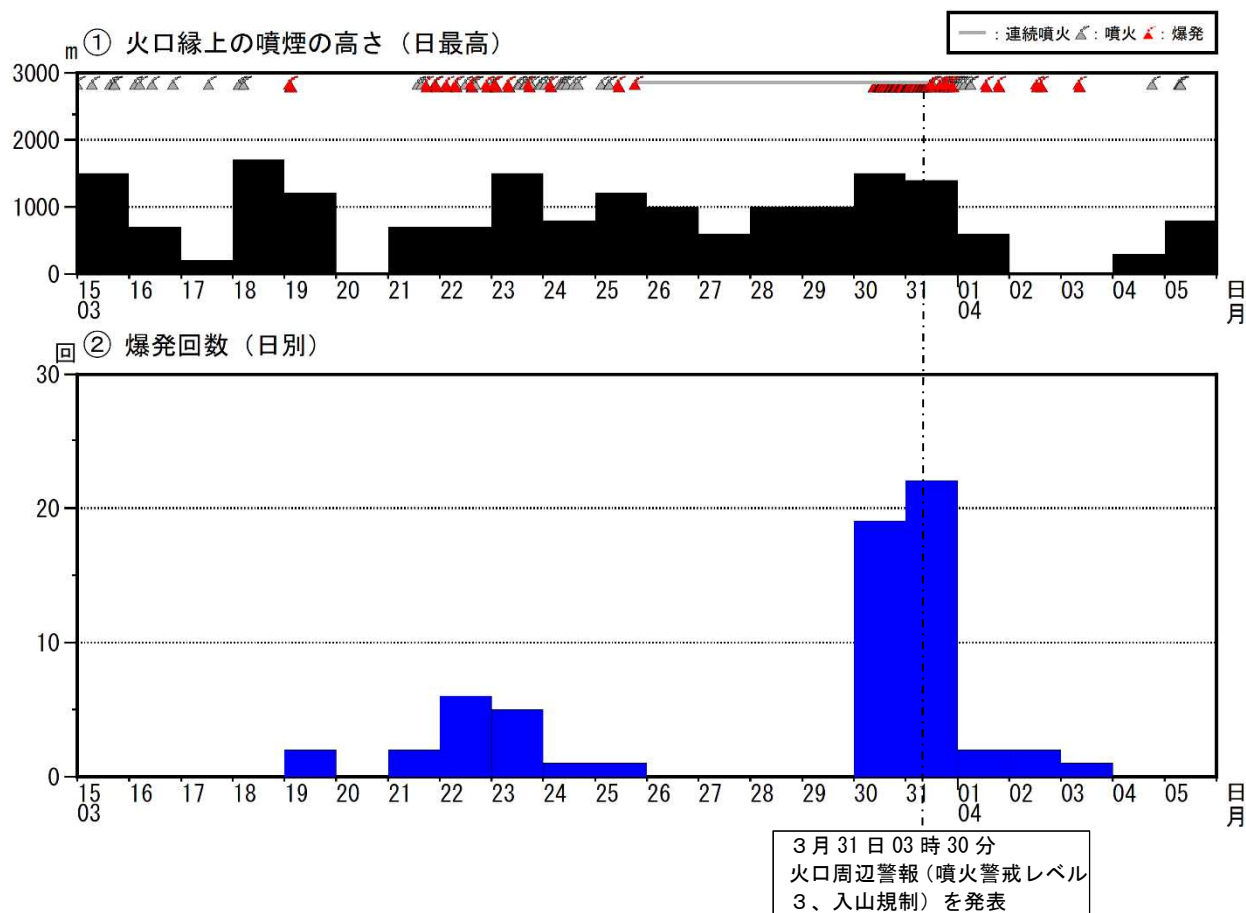


図2 諏訪之瀬島 噴煙の日最高高度と爆発の日別回数（3月15日～4月5日08時速報値）
3月30日から31日にかけて爆発が増加しましたが、その後、爆発回数は減少しています。

表1 諏訪之瀬島 爆発の日別回数及び爆発と噴火に伴う大きな噴石の日最大飛散距離
（3月24日～4月5日08時速報値）

	3月24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	4月1日	2日	3日	4日	5日 08時速報値
爆発回数（回）	1	1	0	0	0	0	19	22	2	2	1	0	0
噴石飛散距離（m）	-	-	-	-	300	300	800	800	300	-	-	-	-

3月30日から31日にかけて爆発が増加しましたが、その後、爆発回数は減少しており、4月1日以降、大きな噴石の飛散は最大で火口から約300mまででした。

表中の噴石飛散距離は、爆発及び噴火に伴って弾道を描いて飛散する大きな噴石の飛散距離の日最大値を示しています。また噴石が観測されなかった場合は「-」としています。

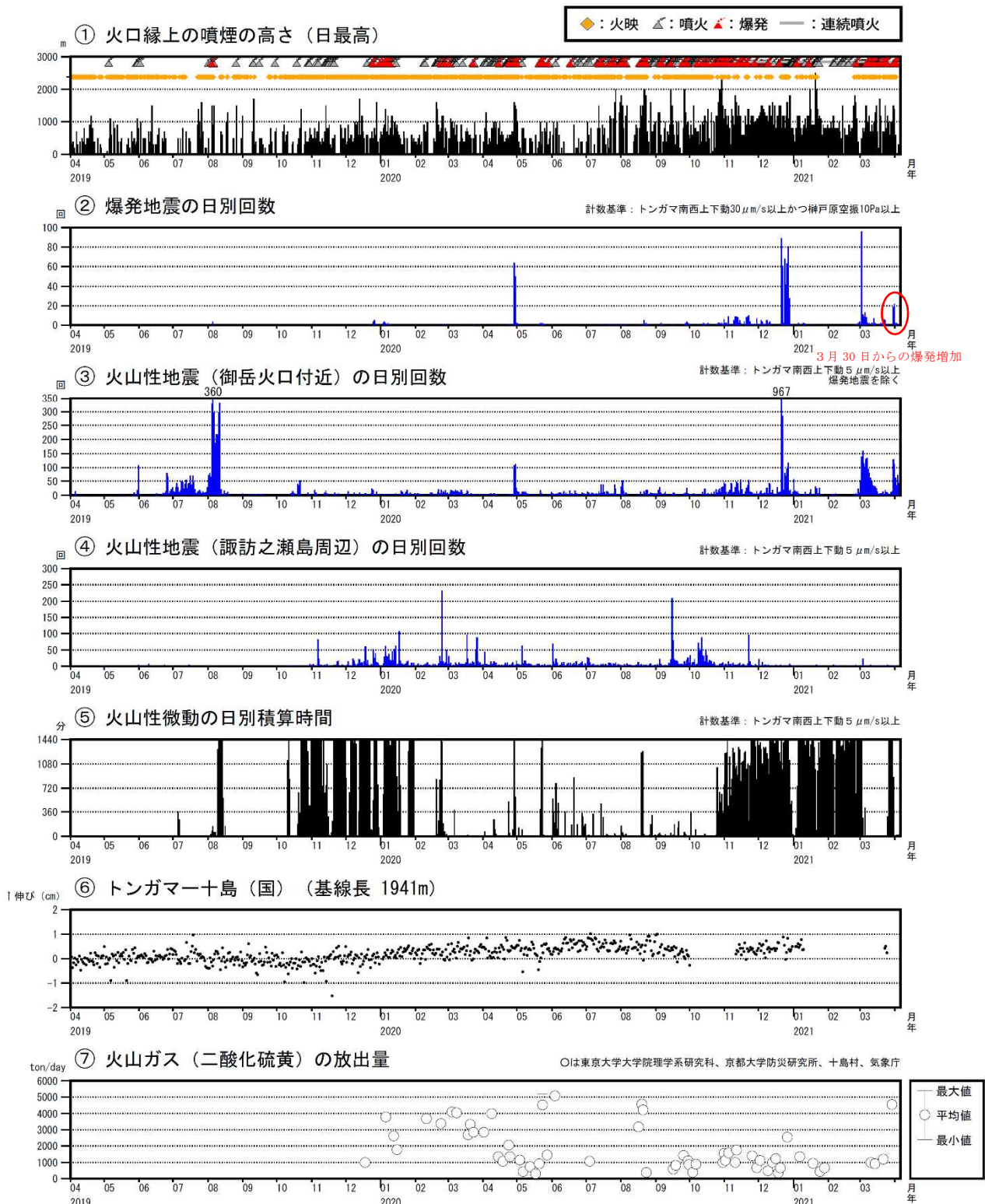


図3 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2019年4月～2021年4月4日）

- ・ 3月30日から31日にかけて爆発が増加しましたが、その後、爆発回数は減少しています。
- ・ 火山性微動は主に噴火に伴って発生しています。
- ・ 東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、3月の火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね1日あたり1,000トン前後で経過しています。3月29日には1日あたり4,500トンと一時的に増加しました。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は2019年12月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

⑥の基線は図4の①に対応しています。空白部分は欠測を示しています。

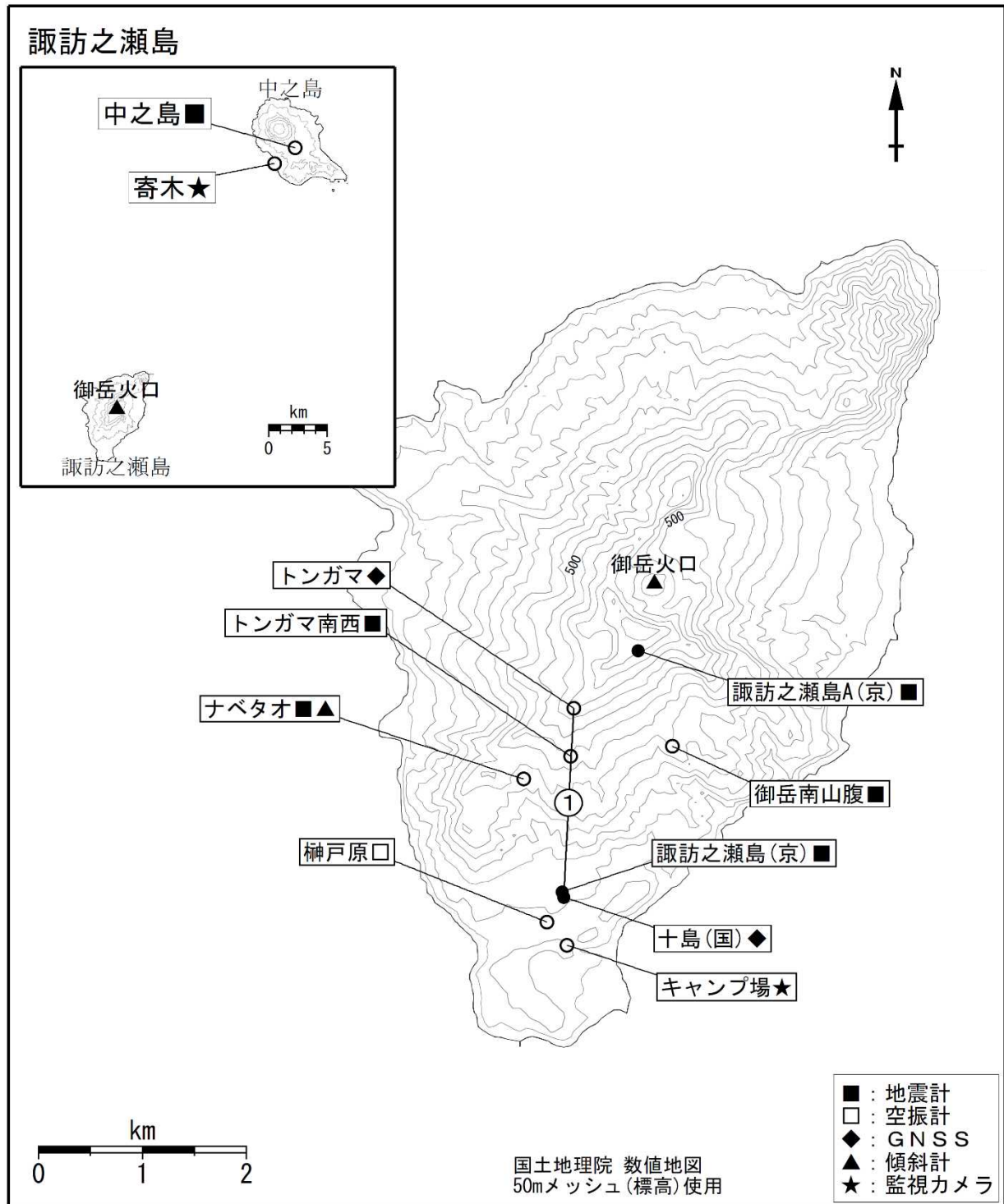


図4 諏訪之瀬島 観測点配置図とGNSS連続観測による基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(京)：京都大学